

MERCOSURがインドとFTAを締結

Mercosur firmó acuerdo de libre comercio con INDIA

1月25日、アルゼンチンも加盟しているメルコスール（南米南部共通市場：亜国、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、そして準加盟国としてチリとペルー）とインドが貿易協定を締結した。同国と年間70億ドルの輸出を記録している亜国にとっては大きな刺激とチャンスになりそうだ。今後120日以内に両者間で優遇関税を適用する600から1,200品目のリストを作成することになっており、いずれは自由貿易協定への発展が期待されている。

合意に至った品目に関しては内国同等扱いになり、税金や関税の課税率も国内のものと同率で両者間の取引が促進される。

現在アルゼンチンは、インドに動植物油脂、鉱物、皮、鉄鋼加工品等を輸出しているが、つ



い最近、インドの経済ミッションが訪れた際には、南米市場への進出のためにインド得意のソフト開発、プログラミングサービスをアルゼンチンの技術者とともにやりたいという提言があった。

インドも中国と同様、食料需要や様々な原料や加工品のニーズが高まっており、アルゼンチ

メルコスールだけに偏る危険性：

経営者でForo Iberomericというシンクタンクの代表であるリカルド・エステベス氏は、3月7日のラ・ナシオン紙に寄稿し、世界の中で生き抜いて成長するためには、極端に一つだけの限られた仕組みだけに依存することは危険だと主張している。20世紀の半ばまでは、アルゼンチンは世界でも有数の有力国であったが、独自路線で対立と緊張を繰り返しているうちに世界から孤立してしまい、90年代のアメリカとの強調も自国の改革の遅れと放漫財政によって大きなチャンスを失ったと分析している。

ブラジルは南米では大きな存在であるが、アルゼンチンと類似した矛盾や脆さを保持していることでEUのような発展的な共同市場を目指したときには国益同士の対立は避けられず妥協が困難になる可能性もあると懸念を表明している。

地域関係を重視ながらもアメリカ主導とはいえ、米州自由貿易協定ALCAの恩恵を受けられるように柔軟に利便性を考えて、チリのような通商政策を提言している。

亜国は最近中国をはじめ、主な取引関係と「戦略的なパートナーシップ」関係を求めているが、歴史は経済的な依存度が多様なほど、政治や外交の面でも独自路線を歩む余力が増えると教えている。

(c)JAM

ンにとって非常に有利な輸出拡大の機会である。しかしながら、3月に訪れたヨーロッパ連合のラテンアメリカ通商交渉担当官カール・ファルケンバーク氏は、メルコスールの重要性を認めながらも、この構想はまだ空想と思えるような要素が多く実際に域内の関税や防疫規定の統一化があまり進んでいないという。更に共同市場としての機能が十分ではなくEUからの輸出品がブラジルのサントス港から入っても域内で流通する場合、各国で再度二重三重に共通関税が徴収され、メリットがない状況になっていると厳しい指摘を行った。

しかし、アルゼンチン側を代表して、通商関係を担当しているレドラド長官は、域内貿易の単発的な不備を認めながらもメルコスールの紛争仲裁制度の形成も進んでおり、政府調達の規制緩和やアルゼンチンとブラジルの為替変動調整制度も機能していると反論し、サービス部門の交渉進展にはEUの過剰な保護で固めている農業政策の改善を求めた。

(c)JAM

米豪間自由貿易協定の亜への影響

Efectos del Acuerdo Libre Comercio EE.UU.-Australia

2月に米国とオーストラリア間で自由貿易協定が締結され、アメリカは最大の農牧畜産品輸出国でありながら強力な同産品の供給先をパートナーにした。ライバル関係にありながら、オーストラリアが米国に輸出している農牧畜産品の66%は関税ゼロになり（特にオレンジ、マンゴ、ミカン、イチゴ、トマト、切り花、小麦等々）、他9%は4年以内に0%にするという条件内容で合意した。また、肉も現在の37万トンから18年間毎年18.5%の伸びを認め最終的には自由な取引を目指している。乳製品やピーナツ等も段階的に輸出枠を広げていくことで同意している。ワインに関しても11年以内に関税をゼロにし、アメリカからももっと自由に入ってくることになる。

以前からアルゼンチンでも指摘されていることだが、オーストラリアとは国土や産業構造が類似している部分があり、輸出品目もその競争率もすべて同等ではないが共通したものもあることから、今回の米国との協定はアルゼンチンにも少なからず打撃を与える可能性がある。亜国輸出事業協会(CERA)のマンティージャ理事長は懸念を表明しており、早急に米豪協定が亜国に対するインパクトを分析する必要があると政府に要請した。アメリカは大陸全体を前提に主導している米州自由貿易構想があまり進展していないということでこうした域外地域や個別に長期的に利害が一致した国々と関係強化を促進しているのである。

(c)JAM